

大好きな句ふるさと

中泊町立中里中学校

一年

菅原

有紗

新型コロナウイルス感染をくい止めるための休校、不用不急の外出を控える生活の中で、春、いつもの今頃はどりしていただろう。と思いをはせました。

物心ついたときから、家族で行っていた桜まつり。芦野公園のピンク色の木々の間を走ってくるオレンジ色は、津軽鉄道のメロス号。カメラマン達の真剣なまなざし。どこかから

聴こえてくる津軽三味線の音色。

弘前城公園では、人力車に乗せてもらい、駆けぬけた桜吹雪の中。お堀の川下りで、知らぬ人達とおそろいの笠をかぶり見上げた桜。時間が過ぎるのを忘れるほどに見入った外堀の花いかた。

たくさんの出店。水そうの中の赤、白、黒すばやく身をひるがえして泳ぐ金魚たち。ワ

ロヨンの箱をあけた時のように、カラフルに光るたくさんのヨイヨイ。

今、夏をむかえ思い出すのは、首が痛くなるほどに見上げた五所川原の立ちねぶた。そして青森ねぶた。体中に響いてくる太鼓の音、少しせつない笛の音色、ゆかたについている鈴のかあいさ。最終日の海上運行にゆら身とゆれるねぶたの灯、視界いっぱい広がる花火に、心がすいこまれそうになった夜。どの場面にも、家族、友だち、周りの人達。の笑顔があふれていました。スマホの中の写真よりも鮮やかに、私の心に焼きついている。白ふるさと田の景色。今、見る事が出来なくなっただけが付きましました。私の住む青森はとても美しい色彩にあふれているという事。これを無くしたくはありません。コロナ禍の困難を、力を合わせ共に乗り込んえ、出合いたい風景がたくさんあります。そしてまた、今のこの日々の中にもいいものをたくさん見つけていきたいです。私は、自分の住む町青森県が大好きです。